

第4回スポーツによる地域活性化懇話会 概要

1. 日時

令和2年7月16日（木曜日）午前10時30分～12時00分

2. 場所

都道府県会館403会議室

3. 出席者

○ 構成員

高橋義雄、大浦征也、中嶋文彦、古屋光司、山下修作、吉永憲

※座長以外は五十音順、敬称略

○ 山梨県

知事、スポーツ振興局長

4. 会議概要

○ スポーツコミッションについて

- ・ 何を担わせるのかという点に関しては、優先順位、ステップはあり、山梨県ならではのものからアプローチした方がよい。まずは優先順位として、山梨県ならではのものに、ある程度リソースを集中させていくべき。
- ・ スポーツというハコがあるとして、それをスポーツ及びライブエンタメまで広げることができるかが重要。
- ・ 外国人、特に中国やASEANといった地域の観光にスポーツツーリズムを絡めていく必要がある。
- ・ 営業ノウハウを持った方と一緒にやっていくこともありうる。
- ・ 地元の人たちが中心に関わるのはもちろんだが、必ずしも地元出身の人だけでなくてもよい。例えば、富士山好きの人が集まって色々なことをやっていくなど、そういった組織づくりを目指すのもあり方の一つ。
- ・ トップの人は非常に大事。しっかりしたものであれば、大企業でも出資してくれるような拠点になるかもしれない。しっかりしたコンセプトができれば、そういった動きにも繋がるのではないかと。

○ 総合球技場について

- ・ スポーツだけで稼ごうとするのは困難。まちづくりをいかにするのかわかるところまでの全体収支を見ないといけない。
- ・ まちづくりとの一体化がポイント。スポーツにまつわるマネーポイントがどこなのかというと、それは施設自体ではなく、数時間或いは1日過ごせる「まち」に、スポーツが自然に溶け込んでいるというところの構成となる。

- ビッグイベントを年に何回か開催すればペイできるのであれば、どうすれば 365 日を埋めることができるのかということに苦慮せずに済む。スポーツだけではなくて、音楽イベントまで含めてしっかり設計段階から入った方が良い。
- スポーツの施設がいくらかかるのかというだけではなく、もっと若者が入ってくるためにこういった施設があるべきだという視点があると良い。スポーツの施設として使うためにも、稼ぐ手段をたくさん持っておけば、結果、スポーツをする方が利用料も安く済み、多くの方に来ていただけるという好循環が生まれる。
- 最近のトレンドでワーケーションという言葉があるが、今回のコロナ禍でさらにそれが促進すると言われている。東京にいなくても仕事ができるというところで、通信環境をしっかりと整えつつ、新しいものを目指すべき。
- 静岡や長野にも移動のしやすい中継地点としての拠点になりうるだろう。